

ルワンダ国月報（2015 年 3 月）

主な出来事

【内政】

● 1 日、カガメ大統領召集の下、第 12 回ナショナル・リーダーシップ・リトリートが開催され、政府関係者約 300 人が参加した。（2 日）

【外政】

● 7 日、第 9 回北部回廊統合プロジェクト（NCIP）サミットがキガリにて開催された。6 日の閣僚セッションでは石油精製所、石油とガスのパイプライン及び EAC 諸国を繋ぐ標準軌鉄道建設について議論が行われた。（23 日）

【経済】

● 5 日、ルワンダ及び日本政府は、地方に清潔で安全な水を供給するための 840 万米ドルの対ルワンダー一般プロジェクト無償資金協力「第三次地方給水計画」贈与協定に署名した。（6 日）

※以下はルワンダの英字日刊紙「The New Times」の記事を取り纏めたもの。

【内政】

・第 12 回ナショナル・リーダーシップ・リトリート

1 日、カガメ大統領召集による、毎年開催されている第 12 回ナショナル・リーダーシップ・リトリートが東部県のガビロで開催された。大臣を含む約 300 人の政府関係者が参加した。（2 日）

・コンゴ(民)からの難民帰還

7 日、20 年以上コンゴ(民)に避難していた 77 人のルワンダ人難民がルワンダに帰還した。（8 日）

・東アフリカ立法会議（EALA）議員選出

16 日、マーティン・ンゴガ前検事総長が、EALA の議員に選出された。同氏は 89 票中 83 票を獲得した。（17 日）

・e ガバナンスフォーラム開催

青年・ICT 省及びコモンウェルス・テレコミュニケーション団体が、キガリで 3 月 24 日、25 日の 2 日間に電子政府フォーラムを開催することが分かった。同フォーラムには、200 人以上の IT 関係者、民間セクター、政策立案者、学者等が参加する見込み。ルワンダ政府は、全ての政府サービスをオンライン上で可能にすることを検討している。（19 日）

・ルバブ郡長の逮捕

22 日夜、バハメ・ルバブ郡長が汚職の容疑で逮捕された。数日前に逮捕された同郡の政府関係者と共犯で、400 万ルワンダ・フラン（RWF）の賄賂を建築業者から受け取ったとされている。（24 日）

【外政】

・大湖諸国経済共同体（CEPGL）サミット

CEPGL の 2014 年～2020 年の 7 年間の開発計画には優先プロジェクトのリストがあり、その費用は約 160 万ユーロである。リストのトップ項目は、食料安全保障を促進するための商業的農業開発、栄養失調の撲滅及び生計向上である。大きな潜在力を持つのは、3ヶ国にまたがるルシジ平野の農業開発である。CEPGL は昨年、アフリカ開発銀行（AfDB）にマスタープランの枠組みを提出している。（1日）

・第9回北部回廊サミットの開催

（1）7日、第9回北部回廊統合プロジェクト（NCIP）サミットに参加するため、ウガンダのムセベニ大統領、ケニアのケニヤッタ大統領、南スーダンのキール大統領及びブルンジのルフィキリ第二副大統領がキガリに到着した。NCIP サミットは3つのセッションで構成されており、4日及び5日は政府関係者のセッション、6日は閣僚セッション、7日は首脳サミットが開催される。6日の閣僚セッションでは、石油精製所、石油とガスのパイプライン及び EAC 諸国を繋ぐ標準軌鉄道建設について議論が行なわれ、報告書が各国首脳に今後の指針として提出される。ルワンダ、ウガンダ、ケニア及び南スーダンがメインアクター国であり、タンザニア、ブルンジ及びエチオピアはオブザーバーとして参加する。（7日）

（2）北部回廊会合が開始されてから2年足らずだが、インフラ、エネルギー、ICT 及び貿易に関する14のプロジェクトが検討されている。北部回廊統合プロジェクトの最近の業績は、労働者の移動の自由、ID カードの旅券としての適用、通信の統合、ケニア、ウガンダ及びルワンダ間の観光ビザの一元化、また、EAC 国民の労働ビザ発給等があげられる。ルワンダとウガンダは安全保障条約を批准し、ケニアも近々批准する予定である。また、ブルンジがオブザーバー国としての参加からメインアクター国（fully participate）となった事が発表された。同サミットでは、民間セクターとの連携を強化するため、初の試みとして民間セクターからの関係者も参加した。次回の北部回廊サミットは2ヶ月以内にウガンダで開催される予定。（8日）

（3）ルワンダ、ウガンダ及びケニアの3ヶ国の政府関係者は、標準軌鉄道（SGR）の建設資金を求め、中国・北京を訪問する。モンバサからキガリを結ぶ同鉄道の総費用見積り額は140億米ドルであり、3ヶ国はそれぞれ出資することで同意している。ハテガ・ウガンダ NCPI コーディネーターは、中国政府に要請書は提出済みであり、先方政府からの連絡を待っているところである、日程はまだ決まっていないが、5月にウガンダで開催される次回のサミットまでには訪問する予定である旨述べた。ハテガ氏は、ミッションの構成や、先方政府の面会予定者等について詳細は明かさなかったが、本紙（The New Times）の独自の調査の結果によると、中国の輸出入銀行（Export-Import Bank: Exim Bank）の役員と面会すると思われる。SGR は、モンバサーナイロビーマラバーカンパラーキガリ間の、2,935km を結ぶ予定で、モンバサ港からナイロビまでの工事は既に始まっている。昨年5月、中国

の李首相がケニアを訪問した際、モンバサーナイロビ間の SGR の 85%まで支援する旨の合意書を締結している。残りをケニア政府が負担する。(11 日)

・対イスラエル及びエジプト関係

20 日、臨時閣議が開かれ、新しく開館する在イスラエル及び在エジプト大使館を含む 7 人の特命全権大使が指名された。(23 日)

・地域投資フォーラム

26 日及び 27 日の 2 日間、ダルエスサラームにて地域投資フォーラムが開催され、カガメ大統領、タンザニアのキクウェテ大統領らが出席した。(27 日)

【経済】

・対ドイツ関係

3 日、建設の専門技術向上のため、ドイツ商工会議所による 100 万ユーロの 3 年間のプロジェクトが開始された。同プロジェクトは雇用開発局 (WDA) との協働で行われ、2017 年まで継続して行われる。(4 日)

・対インド関係

インド資本の農業加工会社及びヘルス関連企業の 2 社は、ルワンダ開発庁 (RDB) において企業登録をした。今後 3 ～ 5 年間で 2 社合わせて計 250 万米ドルの投資を計画している。(4 日)

・対英国関係

11 日から 14 日の日程で、英国企業 40 社のビジネスパーソンが当地を訪問する。エネルギー、建設、鉱業、農業、輸送及び金融セクターに焦点を当てる。昨年ロンドンで開催された英国・ルワンダ投資フォーラムにて、カガメ大統領は 2 国間貿易の活性化を促し、今回の訪問に繋がった。(5 日)

・IBM によるリサーチ能力向上

5 日、教育省と中東・アフリカ IBM 社は、高等教育機関における ICT 技術を用いたリサーチ能力向上を行うため、長期合意書に署名した。(6 日)

・対ルワンダ一般プロジェクト無償資金協力「第三次地方給水計画」

5 日、ルワンダ及び日本政府は、地方において清潔で安全な水を供給するための 840 万米ドルの贈与協定に署名した。同署名は、ガテテ財務・経済計画大臣及び小川和也駐ルワンダ日本国大使が実施した。本事業は、東部県ンゴマ、カヨンザ及びガツィボ郡の住民約 3.3 万人が裨益する。本事業は、JICA の支援を得ながら、水・衛生公社 (WASAC) が実施する。贈与される資金は、管路給水施設建設、給水施設維持管理要員の研修に用いられる。同贈与は、東部県における「地方給水計画」の第 3 フェーズである。2008 年 3 月に完了した第 1 フェーズは、610 万米ドルを要し 4.3 万人が、2013 年 7 月に完了した第 2 フェーズは、1,600 万米ドルを要し 5.5 万人の清潔な水へのアクセスを可能とした。(6 日)

・インフレ率 (2015 年 2 月)

10 日、ルワンダ国家統計局（NISR）は、2 月のインフレ率は前年比 0.7%増であった旨を発表した。（11 日）

・対ポーランド関係

1 週間の日程で、投資の機会を探るため、国会議員を含む 5 人のポーランド人投資家がルワンダを訪問し、複数の大臣への表敬、ローカルビジネスマンと面会をする。一行は 12 日、カニンバ貿易・産業大臣を表敬し、同大臣によると、投資家達は農産物加工ビジネスへの投資を検討しているとのこと。（13 日）

・スタンダード&プアーズ(S&P)社、ルワンダの格付け引き上げ

S&P 社は、ルワンダの長期格付けを B から B+ に引き上げた。他のアフリカ諸国では、ケニア、セネガル、モザンビークなどが B+ である。また、昨年 7 月にはフィッチ社も、ルワンダの格付けを B から B+ に引き上げている。（16 日）

・2014 年経済成長率

17 日、ルワンダ国家統計局（NISR）は、2014 年のルワンダの経済成長率は 7 % と発表した。右成長への貢献は、サービスセクターが 47%、農業セクターが 33% だった。また、GDP は 2013 年の 49 億ルワンダフラン（RWF）から 54 億 RWF に増加した。（18 日）

・右ハンドルの輸入

右ハンドルの商業トラック及び公共バスの輸入を禁止する法改正が閣議決定されてからおよそ 9 ヶ月後、ルワンダ政府が 2 月 26 日に官報に掲載した新法律によると、20 トン以上のトラック、国境を越える公共バス及びロード・トラクターは輸入が許可され、また、輸入に際しては、非関税となり 18% の消費税のみが課される。3 月 17 日時点では、5 台のトラックがルワンダ歳入局（RRA）の申請許可を得ている。法改正により、貿易業者は 1 台のトラック輸入にあたり左ハンドル車購入時と比較し最大 3,000 米ドルの削減が見込まれている。また、貿易・産業省は同輸入に関わるセクター全体で 5 億米ドルの削減に繋がると計算している。（19 日）

・対ドイツ関係

17 日、ルワンダ水・衛生公社（WASAC）とドイツの Hamburg Wasser 社は 5 年間の合意書に署名した。右合意書は、能力改善、効率性の向上、水質向上等が目的である。ルワンダ国民の 72.5% は、安全な水へのアクセスがあると言われているが、首都の人口急増に合わせ、水の供給を増加させる必要がある。（19 日）

・対 EU 関係

19 日、ルワンダ政府及び EU は、発電量が十分でない電力の不必要な損失を削減するための送配電網改修に向けた 2,300 万ユーロの資金供与協定に署名した。右署名は、ライアン当地 EU 大使及びガテテ財務・経済計画大臣が行った。右支援では、3 か所の変電所改修及び 1 か所の変電所新設、110KV の送電線 23km の整備が実施され、右送電線の整備によりキガリ・リングと呼ばれる送配電網が完成する。プロジェクトは、インフラ省の監督の下、ルワンダ・エネルギー・グループ（REG）が実施する。ルワンダの現在の発電能力は 155MW

であり、政府は 2017 年までに 563MW とすることを目標としており、ケニアから 30MW、エチオピアから 400MW の電力の輸入実施に向けた取組が進められている。(20 日)

・セントアンドリュース大学 奨学金

24 日、スコットランドのセントアンドリュース大学のキャメロン教授は、ルワンダ国立大学とセントアンドリュース大学は覚書を交換し、国際関係学を専攻する博士課程の学生に対して、無制限に奨学金を提供することを発表した。(25 日)

・ルワンダ中央銀行 (BNR) レポ金利

26 日、ルワンゴムブワ・ルワンダ中央銀行総裁は、民間セクターへの融資を促すためにレポ金利を 6.5% で維持することを決定した旨発表した。BNR は 2013 年にレポ金利を 7.5% から 7% に下げ、その後 6.5% にまで下げた。その結果、民間企業への新規融資は前年比 38.2% 増加した。(27 日)

・I&M 銀行

27 日、アナンド I&M 代表は、同行の 2014 年の純収益は、2013 年の 45 億 RWF から増加し、46 億 RWF であった旨発表した。同行の平均自己資金は 23% と、銀行セクター全体の 10.8% と比較しても高い。(31 日)

・Equity Bank

ケニア資本の Equity Bank Rwanda は、2013 年の 11 億 RWF の損失から回復し、2014 年は 13 億 RWF の収益だった旨の財務諸表を発表した。また、総資産は前年比 85% 増の 888 億 RWF と増加した。(31 日)